

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（実社会対応プログラム）
課題設定型研究テーマ 研究概要

課題（研究領域）

制度、文化、公共心と経済社会の相互連関

研究テーマ名

制度が文化を通じて人々の社会規範や公共心に与える影響：実験室実験とフィールド実験

責任機関

国立大学法人大阪大学

研究実施期間

平成27年10月～平成30年9月

研究プロジェクトチームの体制

氏名	所属機関・部局・職名
<実験室実験研究グループ> <u>研究代表者兼グループリーダー</u>	
佐々木 勝	大阪大学・大学院経済学研究科・教授
<u>分担者</u>	
金子 慎治	広島大学・大学院国際協力研究科・教授
安井 健悟	立命館大学・経済学部・経済学科・准教授
犬飼 佳吾	大阪大学・社会経済研究所・講師
川田 恵介	広島大学・大学院国際協力研究科・准教授
<u>伊藤 光子</u>	認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会・常務理事、事務局長
<u>小塚 英治</u>	広島大学・大学院国際協力研究科・特任准教授（国際教育協力、開発経済学）（国際協力機構（JICA）より出向）
<フィールド実験研究グループ> <u>グループリーダー</u>	
関 絵里香	立命館大学・経済学部・国際経済学科・教授

分担者	
<u>Roberto Ranola</u>	フィリピン大学ロスバニオス校・農業経済学部・教授
<u>Lennie S. Borja</u>	ラグナ湖開発公社・国際関係・開発調査部・部長

※実務者は氏名に二重下線

配分（予定）額

（単位：円）

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
6,090,000	9,330,000	8,700,000	2,660,000

※平成28年度・平成29年度・平成30年度については予定額

研究目的の概要

本研究の目的は、市場調整機能や社会制度が個人の社会規範や公共心に影響を与えるかを実験室実験とフィールド実験から検証することである。この研究では、地域の文化の違いによって社会制度の効果は異なるのかも検証し、最適な社会制度を提案することで、人文社会科学分野として社会貢献に努める。

研究計画の概要

<実験室実験研究>では、ワクチンの寄付から個人の社会規範や公共心の程度を測り、それが市場調整機能、投票ルール、委託委任制度の導入によってどう変化するのかを検証する。<フィールド実験研究>では、異なる文化圏において災害情報が個人の自助努力と相互扶助態度に与える影響を検証する。